

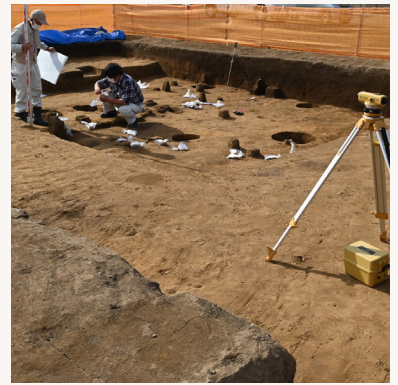


本 庄市には500箇所を超える埋蔵文化財包蔵地が所在し、毎年発掘調査が行われています。

発 掘調査は、学術目的のほか、開発に伴い消滅してしまう遺跡を写真や図面に記録し後世へと伝えるために実施されるもので、市の歴史を語るうえで欠くことのできない貴重な資料が発見されています。

最 新出土品展では、市内で実施された発掘調査の成果をいち早く公開していきます。

ミニ企画展



令 和3年度に発掘調査を行った小島4丁目の旭・小島古墳群元屋敷4号墳周溝内出土の土師器と、児玉町金屋の高柳原遺跡D地点から出土した土器、石製品を中心に展示します。



写真 | 高柳原遺跡（児玉町金屋）の発掘現場の様子



第Ⅰ期 本庄早稲田の杜ミュージアム
交流ひろば
早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター1階
(本庄市西富田1011)

第Ⅱ期 文化財整理室
文化財展示コーナー
児玉総合支所第2庁舎2階
(本庄市児玉町児玉385)

令和4年
会期 1月12日(水) - 2月27日(日)

令和4年
会期 3月1日(火) - 3月25日(金)

開館時間 午前9時 - 午後4時30分

開室時間 午前9時 - 午後4時30分

休館日 月曜日

休室日 土曜日・日曜日・3月21日

入館料 無料

入室料 無料

問合せ ☎ 0495-71-6878

問合せ ☎ 0495-72-6841

本庄早稲田の杜ミュージアム企画展
第2回本庄早稲田の杜地域連携展覧会

令和4年
1月4日(火) - 3月27日(日)

旧石器・縄文時代の
児玉・深谷地域

早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター
2階 情報資料室
開館時間 午前9時 - 午後4時30分
休館日 月曜日(休日の場合は翌日) 入館無料

本庄市・美里町・神川町・上里町・深谷市・早稲田大学が連携して開催する本庄早稲田の杜地域連携展覧会では、主に発掘調査によって出土した資料を出品し、児玉・深谷地域における旧石器・縄文時代の人々の生活と文化を紹介します。

本庄市の遺跡

令和3年度
最新出土品展

あさひ おじまこふんぐんもとやしき とうふん
旭・小島古墳群元屋敷4号墳 (本庄市小島4丁目)

- 土師器
 埴形土器 2点
 壺形土器 1点
 円筒埴輪片 2点

元屋敷4号墳は、古墳時代中期後半から終末期に築造された小島支群の中の北寄りに位置しています。現況においても約2mの高さを有し、墳丘直径30m程度の円墳と考えられていましたが、試掘調査ならびに今回の発掘調査により、墳丘の規模は周堀内側の立ち上がり部での直径が42.8～43m、周堀は周堀外側立ち上がり部での直径が60.5～61m、周堀の幅が9.5～12.6mであることが判明しました。試掘調査では、墳丘の外縁部に沿って礫石が配置された状態で検出されていること、また周堀内からも多量の礫石が検出されていることから、葺石が施されていた可能性が高まりました。今回の発掘調査区からは、土師器や円筒埴輪片も検出され、土師器の年代は5世紀中葉から5世紀後葉に、埴輪は5世紀後半に位置付けられます。今回の調査範囲が周堀の中でも外側付近のごく一部にあたることから、これらの遺物の時期を古墳の築造時期とするには困難が生じますが、時期の比定に一定の指標となる遺物と言えます。このことにより元屋敷4号墳は、小島支群の中の墳丘直径42m、周堀幅14mの規模を誇る大型円墳である小島御手長山古墳（6世紀後半から7世紀後半）に先行して築かれた大型円墳である可能性が高まりました。

たかやなぎはらいせき ちてん
高柳原遺跡D地点 (本庄市児玉町金屋)

- 第31号竪穴住居跡
 弥生土器
 甕形土器 1点
 台付甕形土器 1点
 弥生土器又は土師器
 壺形土器転用鉢 1点
 翡翠製勾玉 1点

- 第35号土坑
 土師器
 小型壺形土器 1点
 土製紡錘車 1点

高柳原遺跡は、本庄市児玉町金屋から高柳にかけて所在する集落遺跡で、古墳時代を中心としますが、古くから様々な時代の人々に利用されてきた土地で、縄文時代から平安時代まで多様な時代の埋蔵文化財が見つかります。高柳原遺跡D地点の発掘調査区内からは、弥生時代末から古墳時代初頭と考えられる竪穴住居跡1軒、土坑、児玉地域の弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての代表的な土器である樽式土器、古墳時代の土師器が発見されました。竪穴住居跡は建て替えによる増改築の痕跡が認められ、床面や貯蔵穴からは、当時の食器や容器である各種の土器や勾玉も見つかっており、当時の生活の様子が良好に分かる住居跡です。竪穴住居跡から出土した勾玉は分析の結果、翡翠製であることが判明しました。石材の産地は、新潟県糸魚川市を流れる姫川の流域と考えられ、この勾玉が、どのようなルートを経て来たのかは、現在のところ明らかにし得ない状況ですが、姫川流域からはるばる本庄市へもたらされた事実は、当時の交易を考える上で、重要な遺物と言えるでしょう。

はねくらみなみせき
羽根倉南遺跡 (本庄市児玉町宮内)

- 土師器
 壺形土器転用棺 2点

羽根倉南遺跡は、本庄市児玉町宮内に所在する縄文時代から平安時代の集落と弥生時代から古墳時代の墓域で構成される複合遺跡です。ここから児玉郡神川町の丘陵頂上にかけては、弥生時代から古墳時代にかけて度々墓域として利用されており、弥生時代中頃から古墳時代の初めにかけて、再葬墓や方形周溝墓が造営されました。羽根倉南遺跡で検出された土器棺墓は、古墳時代中期の土器の口の部分を打ち欠き、楕円形の球体に加工した壺形の土器を2個使って、棺としたものです。壺は底部の大きさが違い、底部の小さい方は棺の本体部分（身）に利用され、底部の大きい方は割って底部から胴部中央までの部分を蓋として利用し、残りを一部ですが、小さい方を据える際に、底に敷いています。平面図と断面図の土器の向きから胴部下半にある穿孔の蓋になるように敷かれていた可能性があると考えられます。また、小さい方は、壺の下の方に小さな穴が開いていますが、これは祭祀等に用いられた土器によく見られる特徴で、意図的に穴をあけて日用品ではないことを明確にしていました。